

研究紀要の発刊に寄せて

静岡県総合教育センターは、平成7年8月の開所以来、「拓く」「究める」「創る」「支える」の4つの漢字をとった「拓究創支」を基本理念に掲げ、高度な研究を基盤とした質の高い研修等を通して、本県における学習と教育の中核的存在として、新しい時代の人づくりを目指してまいりました。

本センターにとって、研究は、研修と並ぶ主要事業であり、教育に関する今日的な諸課題の解決に向けて、学校や教職員の取組を支援する実証的、実践的な研究を、組織的、計画的に行っています。この研究紀要は、その研究成果を本県教職員をはじめ、多くの教育関係者の皆様と共有するものです。

本年度の研究紀要には、研究計画の完了年度に当たる3つの研究、センター内の横断的組織であるアクティブ・ラーニング・プロジェクトチーム、高等学校支援課、特別支援課による研究の成果を掲載しました。

新学習指導要領が、小学校では昨年度から、中学校では今年度から全面実施となり、高等学校では来年度から実施されます。アクティブ・ラーニング・プロジェクトチームによる「新学習指導要領の円滑な実施を支える『主体的・対話的で深い学び』実現のための授業改善とカリキュラム・マネジメントの研究」、高等学校支援課による「高等学校における『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指した授業改善と学習評価に関する研究」は、各学校での新学習指導要領の円滑な実施に役立てていただけるものとなっており、新学習指導要領の理念である「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」実現のための授業改善や学習評価など、学校種に応じた、先生方のニーズや期待にお応えできると考えています。

また、特別支援課による「特別支援学校教員の授業プランの提案に関する研究」については、教職経験10年以下の教員が約4割を占めるという特別支援学校の現状を踏まえ、静岡県教員育成指標が示すキャリア・ステージのうち、主に基礎・向上期の教員の授業力向上のための授業プランを提案するものであり、まさに特別支援学校の喫緊の課題に対応したものとなっています。

いずれの研究についても、研究協力校における実践や効果検証、センターでの年次別研修等での意識調査などをエビデンスとしており、学校の実態を踏まえたものになっています。これらの研究成果が本県教育に関わる多くの皆様に御活用いただけることを願うとともに、本研究を進めるにあたり、御協力いただきました学校並びに関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

静岡県総合教育センター
所長 松下 和弘